

(A03-3) 閉鎖環境における微生物の変遷

(A03-1) 低フルエンス粒子放射線の動物個体への影響と生体の適応に関する多面的解析

報告者 : 研究協力者 日本宇宙フォーラム 嶋津 徹

招聘者 : Dr. Kasthuri Venkateswaran(NASA Jet Propellant Laboratory)、Dr. Christophe Laseeur  
(ヨーロッパ宇宙機関 ESA ESTEC)

A03-01 根井班と共同で招聘 : Dr.Ralf Moeller、Dr. Stefan Leuko、Dr. Kristina Beblo-Vranesevic  
(ドイツ宇宙庁 DLR)

招聘場所 : 大阪大谷大学あべのハルカスサテライトキャンパス (大阪市)

目的 : 海外の微生物研究動向に関する情報交換会

主な参加者 : 那須代表、Dr. David Smith (NASA Ames Research Center) (NASA が費用負担)、  
那須班研究分担者 (杉田、谷、内井、見坂、一條、山崎、嶋津)、公募班 (白井班、浅岡)、  
石岡専任教授 (JAXA)、藤森亮 (根井班、分担研究者)、大森名誉教授(東京大学・中央大学)

開催日 : 平成 29 年 11 月 15 日 (水) ~ 平成 29 年 11 月 18 日 (土)

◎研究代表者 / 那須 正夫 大阪大谷大学 客員教授 (共同開催 : 根井班)

#### ・情報交換会の概要

11 月 15 日 (プレミーティング)

那須代表と海外からの招聘研究者を中心に、アジェンダの最終確認とミニレビューの執筆内容と執筆担当を議論した。

11 月 16 日

Microbiology for space habitation を主題とし、那須代表、一條分担研究者、杉田分担研究者が「宇宙に生きる」における研究の最新情報を紹介し、NASA の Dr. Venkateswaran、Dr. Sm からは NASA が ISS で実施している微生物研究の紹介、ESA の Dr. Laseeur からは ESA の微生物研究およびライフサポートシステムの紹介が行われた。



11 月 17 日

Radiation and human-microbe interaction を主題として、A03-01 根井班と共同で、根井班の藤森分担研究者から HIMAC での研究紹介、DLR の Dr. Möller からは宇宙環境でのモデル微生物を用いた研究の紹介、DLR の Dr. Beblo-Vranesevic からは宇宙の極限環境における微生物研究の紹介、DLR の Dr. Leuko からは、隔離された環境での微生物挙動についての紹介が行われた。

11 月 18 日

日本、NASA、ESA、DLR の研究についての情報交換を行い、今後の共同研究実施について具体的な議論が進捗した。来年度中に NASA に研究者を派遣して共同研究を実施する見込みとなった。また、ミニレビューの執筆を進め、下記が発行されることとなった。

特集「宇宙の極限環境から生命体の可塑性をさぐる」、宇宙居住と微生物、生体の科学